

◆事業方針（計画等における位置づけ）

武蔵野市教育委員会教育目標及び基本方針

基本方針5 学校経営の改善・充実

学校の多忙化解消に向けた取組を推進するとともに、学校経営計画に基づく教職員の協働体制を確立し、保護者・市民から信頼される質の高い教育を推進することができるよう支援します。

また、学校が教育情報を家庭や地域に積極的に発信するとともに、双方向の意見交流を深め、家庭や地域の教育力を活用した開かれた学校経営を推進するための仕組みづくりに取り組みます。

○地域の教育力の活用

「開かれた学校づくり協議会」の学校運営への参画を推進するとともに、「開かれた学校づくり協議会代表者会議」で、本市の学校教育について協議し、その協議内容を学校に還元します。また、地域コーディネーターと学校支援コーディネーターの連携を深め、地域コーディネーターによる学校支援を推進します。

◆地域学校協働活動（学校支援活動を含む）の実施体制（特徴・工夫等含む）

学校コーディネーター（統括コーディネーター）1名

地域コーディネーター18名（各校1名）

年3回連絡会を開催し情報交換を実施

◆運営委員会

各小中学校に設置している「開かれた学校づくり協議会」の代表者による協議会を代表者会として、年2回開催している。

◆広報活動（パンフレット、HP活用、広報誌、報告書など）

○ 保護者や市民への適切な情報の発信、きょういく武蔵野や教育推進室だよりなど、広報の充実により、本市の学校教育に対する積極的な情報発信を行い、保護者や市民の理解を深める。

◆コーディネーターの育成・交流の機会提供や学校に対する事業理解促進

○ 地域コーディネーターの育成については、年3回の情報交換を実施し、教育委員会における課題や各学校や地域の情報交換を行い共通認識を持ってもらっている。

○ 中学校の職場体験で協力店を探すことが教員の負担になっているという課題があった。

そのため、中学校ブロック（小学校2名・中学校1名）の地域コーディネーターが連携し協力店名簿を作成するという取組が見られた。今後、残りの中学校（5校）もブロック体制を構築したい。

◆成果

○ 武蔵野市では「開かれた学校づくり協議会」を設置している。その中で、学校運営などについての協議を行っている。地域コーディネーターが委員として任命されていない学校もあったが、本年4月から全学校で委員として任命された。そのことにより、学校の課題や地域の現状をより学校と共有できるようになった。

◆課題・展望

○ 地域コーディネーターの役割について、現状では学校や地域で十分に認知されているとは言えない。そのため、各校の教員、PTA、青少協、福祉団体、コミュニティー協議会、商連など広範に周知を図っていくことが課題である。

○ 現在、各校1名の配置であるが、今後は複数体制も検討していきたい。